

華麗な革命 - ロココと新古典の衣裳 -



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

京都展

会期：1989年4月4日(火)～5月28日(日)

会場：京都国立近代美術館

主催：京都国立近代美術館、京都服飾文化研究財団

キュレーション：内山武夫（京都国立近代美術館）

深井晃子（京都服飾文化研究財団）

金井 純（京都服飾文化研究財団）

ニューヨーク展

会期：1989年11月1日～1990年2月17日

会場：ニューヨーク州立ファッション工科大学（FIT）ギャラリー

主催：ニューヨーク州立ファッション工科大学、京都服飾文化研究財団

キュレーション：

リチャード・マーティン（ニューヨーク州立ファッション工科大学）

ローラ・シンダーブランド（ニューヨーク州立ファッション工科大学）

深井晃子（京都服飾文化研究財団）

金井 純（京都服飾文化研究財団）

パリ展

会期：1991年1月11日～1992年2月3日

会場：ルーブル宮 パリ衣装芸術美術館

主催：ルーブル宮 パリ衣装芸術美術館、京都服飾文化研究財団

キュレーション：

イヴォンヌ・ブリュナメール（衣装芸術美術館）

ナディーヌ・ガスク（衣装芸術美術館）

フローランス・ミュラー（フランス衣装芸術連合）

深井晃子（京都服飾文化研究財団）

金井 純（京都服飾文化研究財団）



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

概要

フランス文化の粋ともいえる18世紀の服飾を取り上げ、ロココから新古典の衣装への劇的な転換を展覧。本展は、時代と服飾の密接なつながりを示唆しました。

ロココという宮廷文化の中に育まれた服飾は、1789年のフランス革命、ナポレオンの出現と失墜までという激動の中で、劇的に変化しました。ルイ15世、16世の爛熟した宮廷文化の服飾は、男女共に、優雅、洗練、装飾性の極地を示しました。古代ギリシア・ローマ的な美を理想とする新古典主義の影響が強まり、やがてフランス革命を契機に、ロココとは正反対の単純で端正な、木綿の服へと激変しました。この〈絹〉から〈木綿〉への転換はまた、当時イギリスで実用されようとしていた産業革命の投影でもあります。

出展内容（京都展）

衣装:	112点
小物等:	49点
出展品総数:	161点

展示:出展品を、「導入部」「ロココの衣裳 / 豪華な絹織物と装飾」「後期ロココから革命の衣裳 / 極限から新しい流行へ」「新古典の衣裳 / 白い木綿の簡潔性」「下着と服飾関連品」の5つのグループに分類。導線に沿って時系列に、ロココからネオ・クラシックへの変化が明快に理解できるよう構成しました。18世紀の衣裳を習慣も感性も西欧とはまったく異なる日本で展示するため、リボンやレース、靴などのアクセサリーを組み合わせるフル・スタイリングによって、可能な限り18世紀ファッションの再現を試みました。